

Local Life Journal

ローカル・ライフ ジャーナル Vol.10
2020 Winter

in Nara Okuyamato



のせがわ暮らし。

道の果て、雲海の向こう。野迫川村ライフスタイル。

奈良・奥大和

Local Life Report

奥大和エリアの移住や仕事、暮らしについての取り組みをレポート。今回は黒滝村、下市町、大淀町の取り組みをご紹介します。

from
黒滝村
Kurotaki
Mura

「ワンチーム」で経営再生
地域に賑わい呼ぶ奇跡の物語。

▶辰巳副社長(右)と一緒に働く従業員のみなさん
▼黒滝村の観光施設の中心施設である宿泊施設「森の交流館」



赤字経営により休業した「黒滝・森物語村」。経営再生のため迎えられたのは黒滝村出身の辰巳副社長だ。数々の有名旅館やホテルの経営を指導したこの道のプロである辰巳副社長、経費削減やコンビニ誘致に加え、従業員の満足度を高める仕組みづくりなど数々の改革を実行した。2016年のリニューアル後の売上は右肩あがり、高齢者の雇用創出など村全体の活性化にも貢献している。

▲「黒滝の湯」は豊敷きの浴場と優しい肌ざわりの泉質で人気

●黒滝・森物語村
☎0747-62-2770 園奈良県吉野郡黒滝村栗飯谷1
https://www.morimonogatari.com/

from
下市町
Shimoichi
Cho

下市町の新たな名産品に
吉野の山中で育つ新鮮エビ。

バナメイエビの屋内養殖に取り組んでいる山本さん。知人が岐阜で同様の養殖をしていて、自分でもやってみたくと試験的に養殖を開始したのは2016年のこと。養殖の方法を学び、2018年に本格的な養殖をスタートした。現在は近隣のスーパーや地元の商店などにも商品を卸していて、海外産と異なり生で出荷できるので新鮮な状態で味わえると評判になっている。



▲「安定的に供給できるように増産を予定しています」と山本さん



▼汲み上げた地下水に塩を加え、1%の塩水でエビを養殖



▲「吉野水えび」としてブランド化。約3~4か月ほどで出荷できる

●(株)ドローフーズ
☎0744-41-0492 園奈良県吉野郡下市町善城100-1

from
大淀町
Oyodo
cho

名古屋から移住し始めた喫茶店
ボリューム満点モーニングが評判。

▶理想的な田舎暮らしを送る宮本さん夫妻



田舎暮らしを求めて名古屋から移住した宮本さんご夫妻。奈良県内で数十件以上の物件を探しまわりようやく見つけた物件は、目の前に広いお庭が広がる素敵な家屋。リノベーションを施し、1階は奥様のカフェ、2階はご主人のペット服の工房兼ショップとして営業している。カフェは名古屋仕込みのモーニングが味わえると評判で、県内外からリピーターが集まっているそうだ。



▲豊敷きの店内はずっと滞在したくなる雰囲気
◀名古屋から取り寄せたあんこがたっぷりのトーストはコーヒーと相性抜群

●きまぐれや
☎0745-47-0813 園奈良県吉野郡大淀町大岩472 営8時~13時 園土日

from
大淀町
Oyodo
cho

大淀地域の情報発信拠点に
ゲストハウスが今春オープン。

▶伝統的な日本家屋。広々とした空間がどうなるのか楽しみだ



近鉄下市駅駅から徒歩約5分、目の前に吉野川が流れる絶好のロケーションに今春ゲストハウスがオープンする。運営するのは大淀町地域おこし協力隊に所属する外狩さん。田舎生活に憧れ2018年から大淀町に移住した。「生活に必要なものを頂いたり、町の人の温かさを感じています」と外狩さん。新たにスタートするゲストハウスを、町の魅力の発信拠点にしていきたいと語ってくれた。



▲吉野川が目の前。夏はバーベキューなども楽しめる

◀希少な若手として注目されるのが嬉しいと外狩さん

●ゲストハウス大淀
☎0747-52-5501 (大淀町役場 大淀町地域おこし協力隊)

engawa 奥大和移住定住交流センター「engawa」

地方と都会、若者と大人、移住者と奥大和地域の方々など、いろいろな場所とひとを繋ぐ「engawa」は、Wi-Fi完備のワークスペース、打ち合わせスペースとして、誰でも利用可能なオープンスペースだ。併設の相談窓口は、奥大和での生活や就業、空き家についてなど移住についてのタイムリーな情報が集まっている。

☎0744-48-3019 園橿原市常盤町605-5 営9時30分~18時 園土・日曜、祝日、年末年始

発行・問合せ:
奥大和移住・定住連携協議会
(事務局: 奈良県奥大和移住・
交流推進室 ☎0744-48-3016)
奥大和移住・定住連携協議会は、
奈良県と奥大和地域19市町村で
構成されています。

Local Life
in Nara Okuyamato

本紙は、奥大和地域に暮らしているの方々へ、移住者や地域での移住・定住に関する取り組みを紹介し、自らが住む地域の良さを実感していただくために発行しています。



◀刈り取った高野槇は束にして作業場へ。重量があるので足腰の負担も大きい
▼山田さん(中央)と奥様(右)、最近移住した梅本さん



家族や仲間と力を合わせて生きていく。

雲海が広がる山間の村で 自然と共にある暮らし。

奈良県南西部にあり、和歌山県と接する野迫川村は、奈良県で最も人口が少ない村だ。山間部を通る細い道の先にどこまでも続く山並み、雲海、澄み切った空に降る星々…。美しく厳しい自然に囲まれた最果ての村で、力強く生きる人々を紹介する。



●(株)サポートYAMADA
のせ川支店
☎0747-20-8036
〒奈良県吉野郡野迫川村大字池津川246
野迫川村で栽培した高野槇のほか、高野槇を使った仏花や樽などの販売を行う。

一番大事な仕分け作業。まっすぐ上に向かって伸びているのが良いそう

<https://supportyamada01.wixsite.com/yamada>



▲高野槇と花を束にした仏花セットは道の駅や直売所などで販売中
▶足場を組んで高野槇を収穫。危険を伴う作業だが身軽にこなす



人生をかけたチャレンジ
「高野槇」で村おこし。

高野槇(こうやまき)は、弘法大使とも縁が深く、仏壇などの供花として広く使用されている常緑高木だ。高野山がある和歌山県高野町と隣接する野迫川村で、その高野槇の栽培をしている山田さん。かつては高野山で宮大工として腕を磨いていたが、波乱万丈の人生を経て縁があった野迫川村に拠点を移した。以来11年にわたり、ほれ込んだ高野槇の生産と販売に取り組んでいる。村の特産品とするべく「のせ川のまき」というブランドも立ち上げた。「ブランド名の入った段ボール箱がセリにかけられて、高値がつくと感慨深いです」と山田さん。2017年には法人化し仲間も増えた。雇用が生まれることで移住者が来るとけると嬉しいですね、と語ってくれた。



▲伐採する時期を迎えた祖父が植えた木々。世代を超えた仕事に深い感慨を感じるそう

●(有)津田林業
☎0747-38-0121
〒奈良県吉野郡野迫川村大字北今西48
主に国有林の造林(間伐、除伐、植付等)を行う。他に沢ワサビの生産も。



①息を合わせて伐採作業を行う二人 ②奈良県でも有数の降雪地である野迫川村 ③数十年をかけて育つ野迫川村の木々 ④厳しい環境にも負けず働く津田さん(右)と南さん(左)



この森を次世代に繋ぐ
二人の若者が見せた決意。

伯母子岳の登り口にあたる野迫川村の北今西集落。厳しい自然環境の中で、林業に取り組み一人の青年がいる。村の林業会社で働く津田さんは、家業を継ぐべく三重で林学を学んだのちに帰郷、以来8年にわたり森林を仕事場として日々を過ごしている。共に働く南さんは兵庫県加古川市出身。田舎暮らしに興味を持ったのをきっかけに野迫川村に移住した。1



年間別の仕事をしたのち、津田さんのお父さんに声をかけられ林業に携わるようになった。二人は年齢も近く、まさに「パートナー」と呼べる存在。共通しているのは、山に対する思いの強さ。「荒れた森林が、自分たちが手を入れることで整っていくのを見るのが嬉しい」と二人。受け継がれてきた森林を次世代に継承するべく、今日も森の奥へと足を運ぶ。

静かな「のせ川の森」暮らし
移住・定住をプレ体験。



夏は避暑地として親しまれ、冬は深い雪に包まれる野迫川村。2019年9月、キャンプ場やホテルもある今北西集落に野迫川村での暮らしを体験できる施設「移住・定住促進施設 ぶなの森」がオープンした。廃校となった旧北今西小学校の一部を改装し、快適に過ごせるように設備を整えている。施設を管理・運営しているのは「NPO法人 結の森倶楽部」。代表をつとめる鈴木さんは小学校の元先生で、当時の生徒の保護者たちとNPO法人を運営している。「まずは四季の彩り豊かな野迫川村の暮らしを体感してほしいですね」と鈴木さん。今後は移住者や地域の人たちが交流できるようなイベントを開催したり、さらに施設を改装したりしたい、と意気込んでいる。



①全3室あり、家電や家具など暮らしに必要なものが揃う移住体験室
②施設を任せられている鈴木さん(右)と西本さん
③イベントスペースにはドラムやギターなどの楽器も
④施設の外観

●移住・定住促進施設
ぶなの森
☎080-2431-3242(NPO法人 結の森倶楽部)
〒奈良県吉野郡野迫川村北今西300
目の前に川が流れる静かな環境で新たなチャレンジを応援。移住体験の詳細は要問合せ

<https://www.nosegawa-ijuteijuu-bunanomori.com/>